

町民たちがコツコツとベルマーク運動

台風で被災した千葉・鋸南町の鋸南小



前列左から、「エンゼルの会」代表の米山美子さん、白石君子さん、後列左から時乗宣子さん、渡辺ます子さん、磯崎正子さん

千葉県鋸南町（きょなんまち）は、唯一の小学校である町立鋸南小学校（樋口和夫校長、児童 237 人）のために、町ぐるみでベルマークを集めています。昨秋、千葉県は強風の台風 15 号に襲われ、鋸南町も大きな被害が出ました。その復旧がまだ済まないうちに今度は新型コロナウイルス禍。それでも現在、学校は通常に戻り、ベルマーク活動も再開されています。

運動の中心は町の社会福祉協議会。町内各所に回収箱を置き、広報誌でマーク収集を呼びかけます。公募したボランティアグループ「エンゼルの会」がマークを回収して仕分け・集計し、鋸南小名義で財団に送ります。鋸南小は学校統合で 2014 年に開校。その翌年から現在のような仕組みでの活動が始まりました。

昨年 9 月 9 日未明、台風 15 号が町を通過しました。飛ばされた屋根瓦がブロック塀に当たって割れる「ガシャン」という音が何度も響き、夜が明けると電信柱が

倒れていました。補修用のブルーシートで町は青く染まり、停電や電波障害も。社協は災害ボランティアの拠点になりました。さらにコロナ禍。今年度のベルマーク活動が始まったのは 6 月でした。

取材したのは 6 月下旬。エンゼルの会の 5 人が作業の様子を見せてくれました。81 歳で最高齢の渡辺ますさんは台風で自宅が被災。「よく切り抜けてきた」と振り返りつつ「いい人たちと巡り会えました」と話します。「一人でも多くの人に活動を知ってもらいたい」と代表の米山美子さん。社協事務局長の増田光俊さんは「子どもたちを支えている活動に感謝します」と語りました。

台風は、鋸南小にも大きな被害を与えました。校舎や体育館倉庫の窓が割れ、教室や廊下が浸水。体育館は避難所や支援物資の受け入れ拠点になりましたが、校舎の屋上にあったソーラーシステムのおかげで停電中でも電気が使え、助かったそうです。



㊤エンゼルの会が集めたベルマークで買ったドッチビー ㊦左から、町社協主事の筒井香織さん、事務局長の増田光俊さん、副主事の吉田裕司さん ㊧台風から約 1 カ月後、鋸南小の屋上から見た景色。ブルーシートが目立つ

ベルマーク財団は昨年の台風・大雨被害で宮城・栃木・千葉・長野の計 50 校を緊急支援しました。鋸南小はその支援校のひとつで、デジタルビデオカメラ、ボッチャボール、ラグビーボールを購入しました。新型コロナ禍で学校は長期休校を余儀なくさせられましたが、6 月からはほぼ通常に戻っています。

樋口校長は「全国の皆さんの善意でいただいた支援。本当に長く使っていきたい」。続けて「町のみなさんの善意にも支えられていると感じています」。今後は学校でのベルマーク収集にも力を入れていくそうです。

学校全体に協力呼びかけ、活動立て直し

和歌山市立宮北小・育誠会による活動体験を紙上発表

和歌山市立宮北小学校(道本美月校長、186人)は、和歌山でのベルマーク運動説明会で活動体験発表をする予定でした。説明会は新型コロナ禍で中止になりましたが、早くから構想を固めていたこともあり、発表用資料を送ってくれました。



同小 PTA は「育誠会」といいます。ベルマーク活動は、今から 10 年前、育誠会役員の声かけで、数名の親しい保護者での作業から始まりました。数年後、その保護者の子どもたちが卒業したことから活動主体は広報部に移りましたが、2017 年には参加者が減って、活動継続が難しくなったそうです。

そこで翌年、児童を含めた学校全体に協力を呼びかけてみました。すると、「仕

分けをしてみたい」という子どもたちが手を挙げてくれたそうです。その年の広報部長で、現在副会長を務める濱渦典子さんは「保健の先生も協力してくれて、教室に行くのが難しい子も保健室で黙々と作業してくれたそう」と話します。2019 年度からは、広報部の業務を離れ、ボランティアを募る形に移行しました。

また、2017 年に当時の広報部長がベルマーク運動説明会に参加し、マークは切り揃えたり台紙に貼ったりしなくても良いこと、送付の締め切りはないこと、ベルマーク便りコンクールが開かれていること、ベルマーク預金は使うこ



とが援助につながることを初めて知りました。情報は保護者間で共有し、活動方法を見直しました。

昨年からベルマーク便りを作り始め、さっそくコンクールに応募。見事、佳作に選ばれました。作っているのは栗村美穂さん。賞金の 1 万円は図書室の本の購入にあてたそうです。

2018 年には一輪車 2 台を購入しました。濱渦さんは「子どもたちがとても喜んで使っていました」と言います。栗村さんは、今後やってみたいことが頭に浮かんでいるようで、「新型コロナが終息したら、ベルマークが付いている商品を当てるクイズラリーや、他校がやっていたテレビ番組『逃走中』を真似たイベントをしてみたい」と話してくれました。



新大使に近藤瞳さん 神戸市立魚崎小

神戸市立魚崎小学校(山本直子校長、1195 人)のベルマーク大使が PTA 本部役員・近藤瞳さん=写真中央=に交代しました。2016 年 1 月の任命以来、PTA 交代期に大使を引き継いでもらっており、近藤さんは 6 代目です。

例年、クラスから学級委員を選出しますが、今年度はコロナ禍により委員選出が出来ませんでした。そのような状況の中、ベルマーク正副委員長と 3 人で、マークを仕分けてくれています。「2 学期からは、お手伝いして下さる方を募集して進めていきたい」と話してくれました。

